

蕨 広報WARABI 6

2010/平成22年
わらび・705

- 平成22年6月1日発行／発行所・蕨市役所
- <http://www.city.warabi.saitama.jp/>
- 蕨市の面積 5.10km²
- 5月1日現在人口：72,033人 前月比 +54人
男 36,814人 女 35,219人
世帯数：35,848
人口密度：14,124人/km²

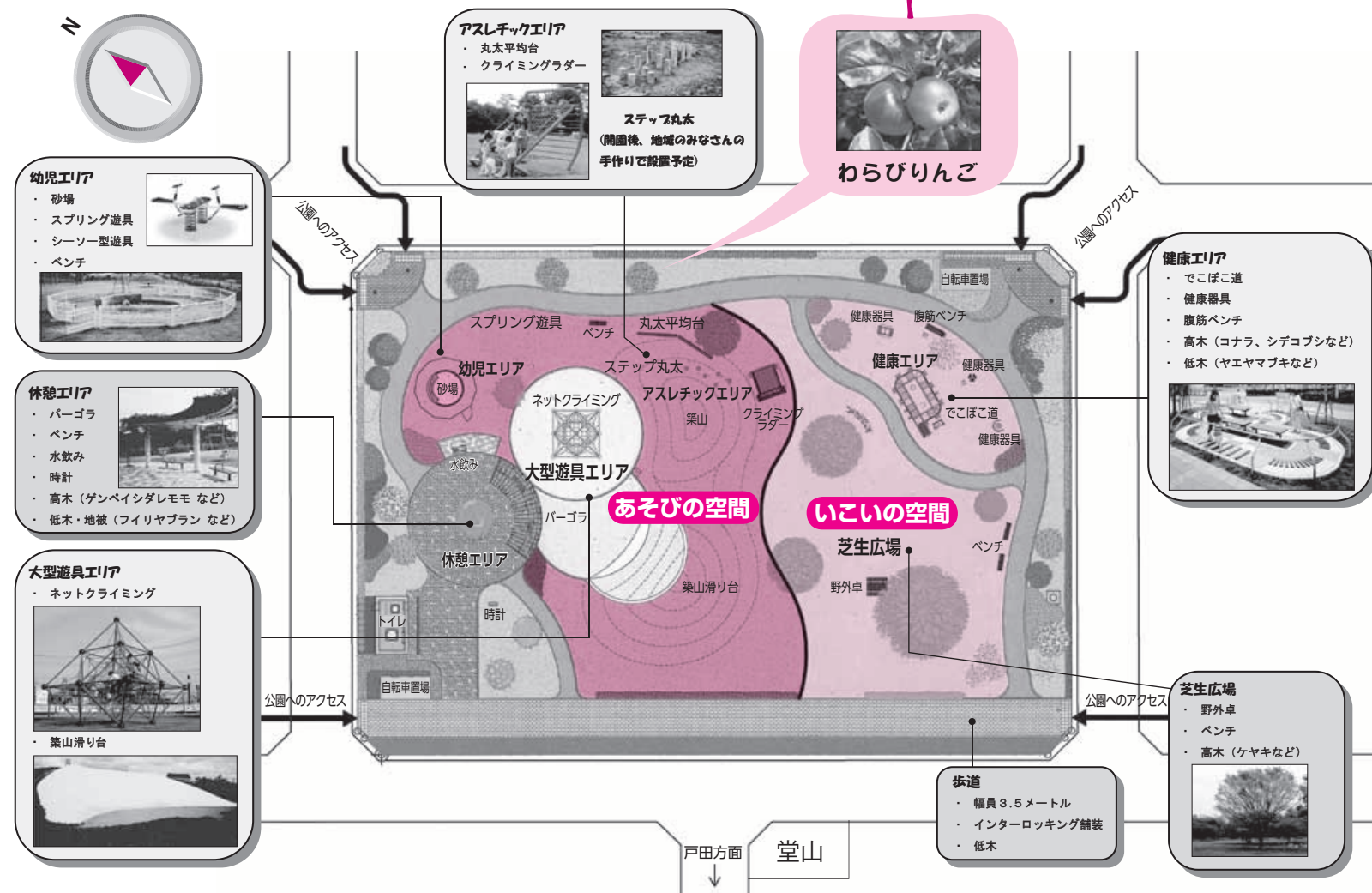


男子も女子もがっぷり四つ 土俵が沸いた少年相撲大会

「はっけよい、残った、残った」。審判の威勢のいい声、ちびっこ力士の果敢なぶつかり合いに土俵が沸きます。5月23日、市民体育館で開催された蕨市少年相撲大会に保育園児から小学6年生まで50人が参加。地域別の団体戦や個人戦を通じて熱戦が繰り広げられました。

——目 次——

- 仮称・錦町7号公園の
実施設計図完成…… 2
- 蕨市の財政事情の公表…… 4
- 親と子のニュースの小窓… 6
- ほっと・エッセイ…………… 7
- わが家のアイドル…………… 7
- 輝いていま ひと …………… 8
- ぶらっと・わらび・小さな旅… 8



Park



「みんなが楽しめる公園に」とアイデアを出し合う皆さん

区画整理の錦町に 地域の声を生かした公園整備 仮称・錦町7号公園の 実施設計図が完成

今年度、錦町6丁目に仮称・錦町7号公園を整備します。整備に当たり、これまでさまざまな形で地域の皆さんにご意見を伺い、それを基に公園の設計案がまとまりました。そこで今月は、同公園の概要をお伝えします。

住民参加の公園造り

仮称・錦町7号公園は、区画整理事業のなかで計画された公園です。場所は錦町6丁目5番地周辺で、隣には堂山、北東側には西小学校があります。広さは約2769平方メートルで、同じ錦町地区にある春日公園とほぼ同じ規模です。区画整理事業で整備を計画している公園となります。

地域の宝シンボルに

また、この公園には、錦町で生まれた、日本一早く実を赤く染め

整備に当たっては、昨年の9月から12月まで全5回、錦町コミュニティ委員会や町会、子ども会育成会連合会から参加者を募り、ワークショップを開催しました。市民の皆さんが中心の話し合いでは、「木陰でくつろげる公園

9月から整備工事を始めます

仮称・錦町7号公園の整備工事は、9月中旬に着工、来年の2月下旬に整備を完了する予定です。この間、運搬や施工などで近隣の皆さんにご迷惑をお掛けすることがありますが、住みよいまちづくりを進めていくため、ご協力をお願いします。詳細＝道路公園課公園係（☎433・7716）

新公園に期待の声



こみや 美紀 さん
錦町2丁目・37歳

子育て世代も安心

対象年齢に合わせた遊具があるので、3人の子どもたちみんなが楽しめそうです。防犯上、見通しが良いというのも、安心して利用できるポイントですね。地域で育てている「わらびりんご」の苗木も、子どもの成長と共に見守っていきたいです。



よしだ あやね さん
錦町2丁目・7歳

いっぱい遊びたい

前に住んでいた所では、芝生のある大きな公園でいつも遊んでいたのですが、近所にそんな公園があればいいな、と思っていました。新しく出来る公園で、ネットクライミングをしたり、芝生の上を思いっきり走り回りたいな。



なたい せいじ さん
錦町4丁目・80歳

散歩に最適な公園

健康が第一と、ふだんから体を動かすような心がけています。公園の設計図を見ると、芝生が広がり、季節を感じられるような緑があるほか、軽運動ができる器具も備えているので、私たち高齢者も楽しく散歩ができそうです。完成が待ち遠しいですね。



市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。
今月は3日、7月は1日です。
時間は午後1時～5時を予定
しています。
ご希望のかたは秘書広報課
(☎433・7701)へ

毎朝、子どもたちが元気に登校する姿を目にします。新入学、進級から2か月がたち、すっかり学校生活に慣れたようです。ところで、小学校の1学級の編成基準は国の法律で40人と定められていますが、小学校1、2年生については埼玉県が35人学級を実施しています。この4月からは、3、4年生でも蔵市独自に35人程度学級をスタートさせました。今年度は4校4

ほっと・エッセイ 31

教育の充実に向けた
市独自の「35人程度学級」

市長 頼高 英雄

学年が対象となりましたが、例えば、北小学校3年生は児童数が80人のため、従前は1クラス40人の2クラスとなるところが26、27人の3クラスとなりました。子どもたちに生きる力と確かな学力を身に付けさせたい、分ける喜び、自信を付けさせたい、これもがそう願っています。今回の35人程度学級は、そうした教育を進める上での大きな条件整備となることを期待しています。子どもにとって、小学校時代は、二度とない、人間としての基礎を作る重要な時期です。次代を担う子どもたちが、いきいきと育つまち・蔵を目指して、引き続き、教育の充実に力を入れていきたいと思っています。



子どもクラブ 出土品に興味津々の体験学習

東小学校

4月28日、東小学校の図書室に土器や埴輪などの出土品がずらり。この日開かれたのは、県教育委員会が主催の体験学習「古代から教室へのメッセージ」です。6年生56人が参加したこの授業の魅力は、ふだんは触ることのできない貴重な出土品に触れること。室内には縄文から古墳時代の品々、約30点が並べられ、児童たちは1つ1つを手に取り、「土器って意外と軽いね」「埴輪かわいい」と興味津々。教科書からは得られない感動と理解を深めた子どもたちは、終始目をきらきらと輝かせていました。

「このみは、1日に何度も公園に寄っては、ブランコへいちもくさん。私が背中を押してあげる」と、大喜びします。じつとしてるのは寝ているときぐらいで、雨の日でも窓を指して外に出たがほどう活発です。目まぐ



このみちゃん
(1歳3か月)

よしゆき 敏幸さん
ひろみさんの
二女
南町2丁目

わが家のアイドル

—459—

るしい毎日ですが、夫と、小学生のお姉ちゃんお兄ちゃんも、このみのめんどろを見てくれるので、私も子育てを楽しんでいます。このまま病気をせず、元気に育ってほしいですね」と幸せそうに話す、母親のひろみさん。



優しさの「環境行動」

設備の老朽化に伴い、平成17年度から進めていた塚越ポンプ場の改築工事が今年3月に完了しました。工事では、屋上にあった大規模な脱臭設備

が撤去されたことから、環境にも配慮しようと、屋上緑化を実施。断熱性を高め省エネ化が図られるとともに、植物の蒸散作用により、ヒートアイランド現象の緩和が期待できます。採用したツルマンネングサは、生育旺盛で横に広がって伸びるため、被覆率が高く、雨水だけでぐんぐん成長。約200平方メートルの鮮やかな緑が屋上に広がっています。なお、市では、改築完成の施設見学会を7月に行います。詳しくはお知らせ版8ページを御覧ください。

男女共同参画のまちへ 「話そう、働こう、 育てよう。いっしょに」

(平成22年度標語)

蔵市では、男性と女性が互いに尊重し合い、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けていろいろな事業を進めています。そこで、今月23日から始まる男女共同参画週間に合わせて、市民活動推進室の福田望係長にお話を聞きました。

親と子の ニュースの 小窓



男女が平等で共に歩む蔵を目指して
フラビ こんにちは。今日は、男女共同参画について教えてください。
福田 あら、難しい言葉を知っていますね。
フラビ お父さんが教えてくれたの。女子も男子も区別なく仲よくするんだよって。
福田 そう、学校でも男女仲よく勉強したり、遊んだりしていますよね。
フラビ はい。給食の準備や掃除も、みんなで協力し合っているよ。
福田 でも、社会には「男の人は仕事、女の人は家事」といった、役割が決まっているように考えている人もいるのよ。日常生活のどんな場面でも、性別にとらわれることなく、男女が互いに尊重しながら、自分らしさを発揮できる社会にしましょう。
みつめよう男女のパートナーシップ
福田 また、毎年6月23日からは男女共同参画週間です。市では、この時期に、男女共同参画にちう、という考えが男女共同参画の基本なのよ。
フラビ だれも差別してはいけないんですね。
福田 そのとおりなの。そんな男女共同参画の社会を目指して、蔵市では、平成15年に「蔵市男女共同参画パートナーシップ条例」を作りました。翌年には、具体的な計画となる行動プランを作り、男女共同参画のまちづくりを進めています。
フラビ 例えば？
福田 女性に対する暴力をなくそうと相談業務の充実を図ったり、市民の皆さんの男女共同参画の提案事業をサポートしたりしています。なんといっても、男女共同参画は、市民と行政が力を合わせて進めることが大事ですからね。



イクメン大賞「お風呂楽しいね！」 撮影者 村川由紀子さん

「イクメンフォトコンテスト」／パパと子の触れ合いをテーマに作品を募集したところ112点の応募がありました。市民投票と審査で、大賞のほかエピソード賞など5部門の入賞作品を決定しました。

福田 これは昨年度募集した「わらびのイクメンを探せ」フォトコンテストの大賞作品です(左写真)。フラビ イクメン？
福田 そう。育児を楽しむ男性のこと、今とても増えているんですよ。フラビ パパも赤ちゃんも、とても幸せそうですね。福田 家族は小さな社会。それぞれの家族が、家の中の仕事を男女関係なく協力できたら、だれもが暮らしやすく個性輝くまちへとつながると思います。フラビ そのためには、まずは1人1人の心がけが大事になりますね。
福田 そうですね。このイクメン大賞をはじめ、応募作品の展示を10日から30日まで下蔵公民館で行います。ぜひこの機会に、男女のパートナーシップについて考えてみてくださいね。
フラビ 分かりました。

ひと 輝いています

定時制高校の記録映画製作者

おお た なお こ
太田 直子 さん

4

月24日、さいたま市市民会館うらわの

500近い席が満員のなか、記録映画「月あかりの下で」が上映されました。演出から撮影、編集まで行ったのは太田直子さん（塚越5丁目・45歳）です。この映画は、県立浦和商业高校の定時制（現廃校）が舞台。自傷行為を繰り返す生徒や机上に座ったままで話す生徒。そんな生徒たちを決して見捨てずに支え続ける教師たち。両者のありのままの姿を4年間、カメラで太田さんが追い続けたも

映像で未来への橋渡し役を



のです。

太田さんが映像の世界に入るきっかけとなったのは、26歳のときに見たベトナム戦争の記録映画です。戦地の惨状、生々しい兵士の証言から受けた強い衝撃。一方、その衝撃を後世に残すことができる映像という手法に魅力を感じた太田さん。勤めていた出版社を辞め、映像の世界へ飛び込みました。当初は思うように軌道に乗らず苦悩の連続でしたが、それでもあきらめず今日までできました。撮影の信念は、「人々の声を正確に伝えること。それぞれの思いを拾って、歴史に埋もれないようにしたい」と語ります。今回の映画も、若者や定時制が抱える複数の問題を掘り起こし表現しました。現在は、戦争で教育を受けることができなかった高齢者取材中。「今後現代の証言者たちの声を残していきたい」と話す太田さんの撮影意欲は、尽きることがありません。「月あかりの下で」次回上映7月3日 詳細は <http://tsukiakari.com/>

ぷらっと・わらび・小さな旅

田んぼの学校 2010 開校

雨がざあざあ降っています。みんなずぶぬれ。それに手や足もとは泥だらけ。でも、みんな笑顔です。今日、5月23日は「田んぼの学校」の田植え体験。子どもたちに自然のたいせつさを肌で感じてもらいたいと、昨年、地域の皆さんが造った田んぼには200人以上が集まりました。

コミスジ

5月の中旬、初夏を思わせる陽気のなか、城址公園へ。池に遊びに来ていたカルガモの近くをひらひら舞っていたのは、茶褐色のコミスジです。開帳5羽の小さな羽に白い3本の筋。その見た目



わらびの野鳥・虫・草

(300)

が名前の由来です。タテハチョウの仲間、羽を数回だけ羽ばたかせて滑空する特徴的な飛び方をします。本来は、人の気配に敏感ですが、この日はしばらくの間、葉の上で羽を広げてひなたぼっこ。しっかりと写真に収まった後、新緑の木々のなかに消えていきました。

30本1束の苗を持ち、水田へ。「うまく歩けない」「泥んこ楽しい」と響き渡る声。そんな子どもたちをサポートする保護者や地域の皆さんも童心に帰ります。「おいしいお米が出来ますように」と、3本ずつ苗を丹精込めて植える皆さん。秋の収穫が楽しみです。都市化されたまちのなかに生まれ、田んぼ。そこには子どもたちが笑顔を広げ、地域のつながりを深めて



ふだん味わえない体験に笑顔がいっぱい